

目次

ANNEX

ご本人にインタビュー 千野隆司さん 担当 綾美ちゃん	28
読書リスト (2000年8月・9月) 挿し絵 うさお	31
ライブレポート—Mr. Children— 担当 かよこちゃん	50
巻末作家紹介	51
表紙は語る	51
DOKU—GAKU 掲示板	52
次号予告	55

ご本人にインタビュー

豪華版 作家紹介 千野 隆司 さん

担当 綾美ちゃん

* 好きな俳優は誰ですか？

菅原文太

*好きなヒーロー、ヒロインは誰ですか？

いません。

*作品の中の登場人物になれるとしたら、どの作品のどの人物になりたいですか？

考えたこともないです。

*好きな決め台詞、シーンは、どの作品のどの場面ですか？

中村錦之介 が一心太助を演じた映画の冒頭で、画面一杯一杯 ゼーんぶが魚河岸のシーンで、それをカメラが横へなめるようにずーっと追っていくあの迫力、圧巻でした。

*作品の中で行ってみたい場所はどこですか？

江戸時代

*推理小説の顔、と言えば誰を思い出しますか？

藤沢周平

*読んで（観て）後悔した作品はなんですか？

いっぱいありますよ。自分のだって後悔してるのあるし・・・。

*あなたにとって本を読むということはどういうことですか？

楽しみ

*青春時代に出逢っていたらよかった、と思う作品はなんですか？

井上靖 「あすなろ物語」

<これはたぶん私の質問のしかたが悪くて、出逢ってよかったと聞いてしまったと思います>

*これからどういう本（ジャンルとか）を読みたいと思っていますか？

西洋のミステリーとか時代物

*どんなとき、または何をしているときが一番楽しいですか？

自分の子どもと遊んでいるとき（ちなみに小学4年女の子）。

*読む、観る で一番時間を取っているのはどれですか？

読む。

*一日で何をしている時間が一番長いですか？

学校で仕事。

*自分の性格を一言で言えばどんな言葉になりますか？

小心、おっちょこちょい。

*あなたを色にたとえたら、何色だと思いますか？

ひとつの色ではない。

*中学生の時、何になりたかったですか？

建築家

*あなたの夢を教えてください。

別にないです。

*師と仰ぐ人は誰ですか？

師というより三浦哲郎の文はよく読んだし、勉強しましたね。

*一番希望に満ちた言葉はなんですか？

その「希望」という言葉です。

*この一年で一番うれしかったことはなんですか？

自分の本を書店で見たとき。これは本当にうれしかったです。

*生きていく上で大切にしていることはなんですか？

人間関係

*これだけは譲れないものというのがありますか？

今までではあまりないです。

*愛とはどんなものだと思いますか？

相手のために譲れる。

*運命は存在すると思いますか？

はい。

*理想の死に方はありますか？

病床に、そばに子どもにいて欲しい。

*生まれ変わるのなら、何になりたいですか？

違う生き方したいなあ・・・。

*タイムマシーンに乗れたら、いつの時代に行きますか？

江戸時代

*一日だけなれるとしたら、「鳥」と「透明人間」、どちらになりたいですか？

鳥かなあ、でも高所恐怖症だからだめだ。透明人間。見えない物をみてみたい。

*小説を書き出したのは何歳ですか？

15歳(中3) 井上靖の「あすなる物語」を読んだときこういう本を書きたいと思いました。

*プロってというのはどのくらい話を持っているものなのですか？

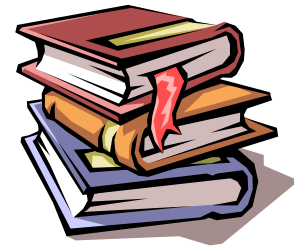
人によって違うと思いますよ。 ばりばり書いている人はそれなりに多い・・・

*好きな(影響を受けた)作家は誰ですか？

藤沢周平。島崎藤村の「夜明け前」これも影響受けました。

*作品には小さな女の子の出ることが多いですが実生活に基づいていますか？

そうですね、子どもの場面は自分の娘のことが重なることがあります。ちょっとした仕草などが娘のそれであったりします。



*作品の中に出てくる女の方は、多くが控えめでそれでいて筋の通っている凛とした、

女性から見ても素晴らしい人が多いですね、やはりこれも奥様がそのような方なのでは？

いえいえ、これは男の理想ですよ。女の人を美化して書いているところはありますね。

*学校の先生と作家とどちらが大変ですか？

それは学校の方が大変です。〈これは即答でした〉

*いつ書いているのですか？

夏休みなどの長期休暇です。

*夜ですか？

昼間、明るいうちから書きますよ。

§ 本に出ているプロフィール

千野隆司 (ちの たかし)

1951年(昭和26年)東京生まれ

國學院大學文学部文学科卒業

出版社勤務を経て現在中学校教員。

平成2年、デビュー作「夜の道行」によって第十二回小説推理新人賞を受賞。

§ 私の知っているプロフィール

中学時代剣道をやっていた。

お茶(茶道)をやっていた。

昔はもう少し前髪があった。

保護者会の時の話がとてもおもしろくて、退屈しない。



DGより プロの方の登場で、とても感激です。(個人的には「二夜の月」を楽しんで読んだばかりなので尚更です。) たくさんの質問に答えていただき、本当にありがとうございました。 これからも千野さんのご活躍をDG一同見守っていきます。機会がありましたら、またDGにも顔を出してくださいね。

読書リスト(2000・8月・9月)

☆ つまらなかった

☆☆ まあまあ

☆☆☆ 面白かった

☆☆☆☆ とても面白かった

☆☆☆☆☆ とってもとっても面白かった！

007 yukoさん

題名	作者名	感想	評価
1 鎮魂歌	佐藤愛子	友人が半ば強引に、読むようにと置いていった。佐藤愛子さんの自伝的小説。別れた夫に対する彼女の気持ちが私には理解できる。読み終わった後何故か切なさが残った。人それぞれにいろいろなドラマがあって、著名な人であろうとなかろうと、その中で人生を演じ続ける…女ってなんか、辛い…	☆☆☆
2 人が好き	瀬戸内寂聴	生い立ちから交友関係まで…興味深い自伝作品 関わりのあった人々との思い出を淡々と綴ってあり実名で語られているので、より身近な面白さがあった。	☆☆☆
3 緋い記憶	高橋克彦	直木賞受賞作品、緋い記憶を含む、7編。どれも、読み進むうちに背中がゾクゾクするような恐怖を感じる。人が忘れ去ってしまった記憶…それをたぐりよせた時、とんでもない事に突き当たる…何か本当に自分の中にも起こりそうな、そんな気がする	☆☆☆☆
4 前世の記憶	高橋克彦	緋い記憶に続く記憶シリーズ第二弾。表題を含む8編。よくもまあ、これだけ ~の記憶が続くものだと感心する。表題“前世の記憶”は、一人で読んでいると後ろに誰かがいる様な気がして、本当に怖かった。	☆☆☆☆
5 死刑囚の最後の瞬間	大塚公子	どうしてこんなのを読もうと思ったんだろう…あまりにも重すぎる。13の凶悪事件13人の死刑囚の最後を綴った衝撃のドキュメント。死刑制度の実態を追い続けて20年…大塚公子さんってすごい人だと思う。	☆☆☆

004 ちかちゃん

最近PCに向かっている時間が多くなり、本を読まなくなってきたので、今月は意識的に読むことを心がけました。(早くベッドに入れば済むことなんだけど・・・) がみちゃんが新刊を買わなくなっていることの影響が私にももろに出て、図書館と「ブックオフ」の本なので、けっこう古さが漂ってます。

作品名	作家名	感想	評価
1 喪われた道	内田 康夫	浅見光彦シリーズ。TVの浅見光彦の世代交代が激しいのも、小説での相変わらずのお坊ちゃまぶりが原因(ごめんね！yukoさん)。「軽井沢のセンセ」(内田康夫本人)を出すところも未だ馴染めず。秘密を公表しようとする人が殺されたりするのも、もう止めにしておいたほうがいいんじゃないかなあ。	☆
2 影の祭り	森村 誠一	13年前に書かれた短編。さすがに時代がかっている。(古くてもいいものはいいけれど) ちょっとまえの小説を読むたびに思うんだけど、急速な携帯電話の普及で推理小説も変わってきちゃうよね。	☆
3 父よ母よ	吉村 秀夫	高校生が国語の授業で両親や家族に向けて書いた一行詩。「お弁当毎日ありがとう。冷たいけれどあったかい」なんていいな。でもきつとちは将来的にはこっちでしょう。「父よ、言いたいことがあったらはっきり言え、母よ、言いたいことをそのまま言うなよ」	☆☆☆
4 二夜の月	千野 隆司	人情ものの時代小説。盗みを働く植木職人と、それを追う岡っ引の話。立場は違うけれど、二人とも孤独で、うまく幸せになれない——。山本周五郎ファンとしては、こういうの大好きです。最後を判っているんだけど、はらはらしちゃって久しぶりに感情移入して読めました。ちなみに、「二夜の月」というのは、十五夜の月を見たら翌月の十三夜の月も見るとされていた江戸の習慣で、十五夜だけだと「片月見」といわれていたそうです。こういう言葉遣いも好きだなあ。今私たちが見上げる月も、この主人公の銚次郎が見ていた月だと思うと何か不思議な気持ちがします。	☆☆☆☆☆
5 淳	土師 守	神戸殺傷事件の被害者の父親の手記。評価はもちろんのこと、コメントのしようもありません。ただ『少年A』この子を生んで』も続けて読もうとしたけれど、「淳」のなかで登場してくる少年Aの母親がとて理解できそうにない人だったので止めました。もう一人の被害者の母親の手記『生きる力』をありがとう』を読んだときの驚きが強かったこと想いいたします。	

6 大離婚	清水ちなみ	離婚を経験した20～30代の女の人たちのアンケートをまとめたもの。答えている人たちの結婚期間が短めのせいかな案外あっけらかんとしている。中には、ふざけてる？と思うのもあって「いまどきの離婚」って感じ。価値観がまるで違う人たちの答えなんて参考にはならないのね。(え?!なんの・・・?)	☆
7 千里眼	松岡 圭祐	催眠療法のカウンセラーの女の人が主人公。以前は自衛隊で飛行機を操り、大きなバイクで通勤し、書道も空手も段の腕前。目の動きひとつで、相手の心を推理する。その思考力の深さ。カルト教団との対決で最後は、東京の空で飛行機を3機も撃ち落とす…。話の展開が早くて読み易かったけれど、男の人向きかなあって気がする。私は「催眠」のほうを読むほうが正解だった。可能性をひとつずつ削除していき知識からの勘も働かせて、相手の心を読んでいくという話のほうが面白そう。 (注：作者が同じというだけで、「催眠」がそんな話なのかは定かではありません)	☆☆☆
8 オン・ザ・ロード・ アゲイン —浜田省吾 ツアーの 241日— (上下巻)	田家 秀樹	1990年のツアーに全部同行した作者の記録。浜田省吾の言葉よりも、そのまわりのスタッフたちのこだわりや頑張りが中心に書かれてるドキュメント。「ブックオフ」でこの本を見つけたときの驚き！喜び！一般人(?)には決して勧めないけれど、宝物です！！どこかの古本屋さんで同じ作者の「陽のあたる場所」を見つけた人はすぐに買って連絡ください。	☆☆☆☆☆
9 ファイアボール・ ブルース	桐野 夏生	女子プロレスの話。一応、人が殺されちゃったりして犯人を追い詰めていく流れだけれど「ファイアボール」というニックネームを持つレスラー火渡抄子の徹底したかっこよさを桐野夏生が楽しんで書いたんだらうな、という話。「千里眼」の岬美由紀の、どーだかっこいいだろうという人物設定よりもっとストレートにわかりやすいかっこよさで、言ってしまえば昔の漫画の主人公みたい。だからと言うわけじゃないけれど火渡さんって、子供向きになってからのスナフキンみたいだった。	☆☆☆
10 十角館の殺人	綾辻 行人	作者のデビュー作。 ミステリー研の6人が、以前大量殺人のあった無人島へ行き、次々に殺されていくという本格ミステリー。ここがポイントというところに色がついているようだった。	☆☆

1 1 四〇九号室の 患者	綾辻 行人	最初から話が見え見え。何かの間違えで、本になっちやったって感じ。	☆
1 2 日本フォーク紀 1969 -1974	黒沢 進	THE AGE OF INDIE-FOLK IN JAPAN ピピ&コット、つボイノリオ、及川恒平、佐藤公彦、山崎ハコ・・・懐かしい名前がたくさん出てくる。元は同じところではじまった音楽が小室等のメジャーフォーク派と、細野晴臣のロック派に分かれていった流れがよくわかる。はっぴいえんど、シュガーベイブ、古井戸は今でも個人で活躍し、泉谷や拓郎はすっかりタレントになり加川良はフォークに残っている中で、岡林や浅川マキは何処に行ってしまったんでしょう・・・。	☆☆☆
1 3 名前がいっぱい	清水 義範	くすくすと笑える、名前に関したお話がいっぱい。	☆☆☆
1 4 玩具の神様	倉本 聰	NHKで放送されたドラマのシナリオ。 シナリオ作家が視聴率のための本を書くようになったとき、その作家のニセモノが各地で姿をあらわし、寸借詐欺を働く。純粹だった頃の作家を尊敬するニセモノの作家が中井貴一、そのニセモノ作家を尊敬する「オモチャ」が永作博美、かたや本物の作家が館ひろし、サッカー選手に捨てられる奥さんがかたせ梨乃。キャストを見ても、ニセモノのほうが人がよさそうな気がする・・・。	☆☆



005 かよこちゃん

永遠に続くかと思えるくらい暑かった夏も過ぎてしまい、ある日を境にすっかり秋の気配です。読書にはもってこいの季節の到来——なんかちょっとうれしくなっちゃいます。それにしても私の場合、一冊についての感想が長過ぎるような。もう少し端的に文章書けないもんだろ～か？これからの課題にしときます。ではでは。

作品名	作家名	感想	評価
シュタイナー 入門	西平直	「命の神秘の法則性」を説いた思想家シュタイナー。C・ユングが押しも押されもせぬ心理学の大御所なら、シュタイナーはその教育思想でわずかに語られるにすぎないようだ。しかし現代社会においてシュタイナーの思想もまた魅力的だ。社会的な人間関係の水平軸に対して、精神的次元に向かう垂直軸をシュタイナーは強調する。自分の内面を掘り下げていくことによって、自分を内側から超えていく。水平軸に広がる日常の「私」と垂直軸において求められる非日常の「私」との出会い。この本はシュタイナー入門というタイトル通りその思想と人物の概略を簡単に紹介している。これからもう少しシュタイナー関連の本を読みたい。こういうの好きなんだよね、なんだか。	☆☆☆☆
シェーカー ～生活と仕事の デザイン～	ジューン・ スプリッグ 訳 藤門弘	19世紀のアメリカにおいて最もよく知られた宗教的共同体シェーカー。平等と自治を主義として独特の生活様式を追い求め、今ではほんのわずかな教徒が残るだけとなったシェーカー教団の遺産は、彼らの残した作品の中に生き続けている。こんなふうにシンプルでストイックな生活をしていたら、自分にとって本当に必要なものがなんなのか、そんなことがはっきりとみえてくるんだろうなあ～彼らの生活様式を撮った写真をみているだけで心静かになるような気がします。	☆☆☆☆☆
似顔絵	山藤章二	健ちゃんからもらった作者直筆サイン入り新書。同じ阪神びいきということもあり、山藤章二、好きです。作者の存在が絵にあらわれると、モデルと作者と読者の関係が立体的になってくる。その共同作業が成功したものが、いい似顔絵というんだそうです。週刊朝日連載の「似顔絵塾」特待生の作品も載っていて、みんなうまい！人生楽しんでるなあって感じです。	☆☆☆
ユングと オカルト	秋山さと子	聞き慣れないグノーシス主義、錬金術の歴史についてなどが長く語られるので、とても私の頭ではついていけなかった。難解で読みにくい。ユングという人は自分の中に分裂した二つの人格があることに早くから気づき、その分裂的なあり方と、そこから生まれる挫折感と不安にスポットをあてた。(こういうところはとっても好きなんだよね。ちょっと難しくなるとダメなんだよね。)もっと読みやすいユング関連本があればいいのに。根気よく探していきましょう！	☆☆☆☆ 全然わかん なかったけ ど、いつか もっと理解 したいとい う願望入り で。

萬(よろず)	雑誌	一冊まるごと廃墟特集。DG vol. 3にあみちちゃんが感想を書いています。今回は健ちゃんが本屋さんで偶然見つけ、買ってきたものを貸してもらったんです(健ちゃんもすっかり廃墟好き!)。もお～返したくないくらいこの本いいね!あみちちゃんが実際に行ってきた摩耶観光ホテル、これからきつと行くであろう廃墟マニアの聖地軍艦島、これは近いじゃん、根岸競馬場跡。心そそられます。大多数の人が汚い、気味悪いというようなものが、ひとたび視線を変えて見れば、ため息の出るくらい美しいものでもある。これがわたしにとっての廃墟の魅力かもしれない。この出版社、次号予告は未定、特集も未定。「いつどんな号がでるか気長にお待ちください」って。あ～いかにも廃墟特集をだすにふさわしい弱小出版社の香りがしてたまらないなあ～!	☆☆☆☆☆
スウェーデン ボルグの思想	高橋和夫	18世紀スウェーデンの科学者であり、偉大な神秘家でもあるスウェーデンボルグの思想の概観を紹介している。50才を過ぎてからの夢や幻視体験を受けて、科学者から神秘家へと転身する。その独自の霊界論、聖書解釈など当時は異端とも受け取られたが、反面その信奉者も数多くいたようだ。スウェーデンボルグは、人間の心の最も深い層を愛と呼ぶ。愛が人間の最深部のものであり、人間の知性的機能は愛から発したものであり、愛が形をとったものであるという。何か嫌な事件の多いこの頃、みんなが、私たちの心の奥には愛があるんだと気が付けばそんな事もなくなっていくんじゃないかと本気で思ってしまう、そんな私なのであります!(よくバカじゃないの、とか言われますが...)	☆☆☆☆
ミュータント メッセージ	マルロ・ モーガン	シドニーオリンピック開催を記念して、前から読もうと思っていた、ニューエイジのバイブル、「ミュータントメッセージ」読んでみました。オーストラリアのアボリジニ<真実の人>族とともに120日間に渡って旅をした女性の記録。彼女は文明人(ミュータント)へのメッセンジャーの役目をその旅の後に果たしていく。「変えられないものを受け入れる平和な心と、変えられるものを変える勇気を与えてほしい」と彼女は神様に祈る。私も欲しいよ、ホント。	☆☆☆
横浜徘徊	堀内ぶりる	健ちゃんから借りた身近だけどちょっとディープな横浜界隈探訪記。今ではなくなってしまった建物も数多く、廃墟マニアを自称するなら迅速な行動が必須条件のようです。三ツ沢のウエスタンレストラン「ブロンコ」、野毛の「萩原クリーニング店」はもうすでに行ってきた!知っているところが紹介されていると、うれしいようなちょっとつまらないような気持ちになりますね。みなさんの廃墟(もどきも可)情報待ってます!	☆☆☆☆

～漫画リスト～

何か漫画が読みたい気分。これからも読みそうなので漫画リストとしてわけて書くことにします。もう漫画は萩尾望都さんだけでいいと思い詰めたときもあったけど、こうやっっているいろいろ読んでみるとやっぱり面白いね。漫画は自宅にあるものを読んでいるので必然的に再読、再々読ということになります。そして買うからには好きな漫画なわけで、従って評価は軒並み高くなるはずで(☆評価なしだっただけいいんだよね!)。少女漫画は自分が買ったものだけど男の子の漫画はダンナか子供のものを拝借して読んでます。2年前の引っ越しで大半の少女漫画を処分してしまったのが、今となってはちょっと残念って気もするけど、家の中を漫画で埋めちゃうわけにはやっぱりいかないもんねえ～。

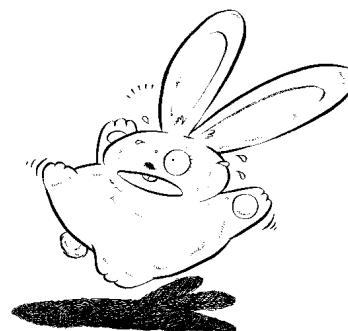
<p>MASTAR キートン 1～18巻</p>	<p>画 浦沢直樹 原作 勝鹿北星</p>	<p>もともと大好きだけど、何回読んでも面白い。「西欧文明ドナウ起源説」を提唱する考古学者であり、生計のために保険の調査員でもある元SAS(サザンじゃないよ!)の伝説的教官。 知的で、強くて、優しくて、愛すべきダメ男でもある。どんな形容詞もつけられるけど、理想の男性像かもしれないなあ～。夢の尻尾をつかむラストも感動的。「君にこの風景をみせたい。僕はここにいます。」こんな人に愛される女性は幸せだなあ～</p>	<p>☆☆☆☆</p>
<p>無能の人 全 六編</p>	<p>つげ義春</p>	<p>やっぱりいいよねえ～何回読んでも面白いって言うことはとっても凄いことだと思うよ。この本なんか前回よんだときより5回目?の今回の方が面白い気がした!気分はつげさんモードなのかも。巻末につげ義春と編集さんの対談が載っているうえに、本人による作品解説つきで、親切な作りになっています。「作品の登場人物と僕とは別の人」と言いながら、「失業中の身、無能の人になっている」何て言ってる。私は完全に同一人物だと思って読んでるけどね。その私小説的なところが大きな魅力になってると思う。自分で自分を笑ってしまおうという悲しいくらいの心意気もいい。 “人生の笑者”になりたい、とつげさんも思ってるのかもしれないなあ。</p>	<p>☆☆☆☆☆ いろいろな出版社から出ているけど、これは日本文芸社の装丁本です。</p>
<p>義男の青春・別離</p>	<p>つげ義春</p>	<p>あとがきによれば、つげ義春って人は”87年に発表した「別離」以来、作品を書いてないらしい。もう13年も書いてないわけね。ほんとに多摩川で石屋をしてる訳じゃないと思うけど今ごろどうしてるんだろう?「別離」は「自殺に失敗した男が今にも消え入りそうな自分の影を見て止めどなく涙を流す」そんなシーンで終わってるんだけどね。ちょっと心配…。</p>	<p>☆☆☆☆ そんなでもないと思いつつ、なにしろ思い入れがあるからね。</p>
<p>総務部総務課 山口六平太 1～34巻</p>	<p>高井研一郎</p>	<p>現在もビッグコミックにて連載中。 なんかできすぎちゃって感がないわけでもないけど、安心して読めます。「釣りバカ」のハマちゃんが自分の楽しみ最優先なら、六平太は人の和を大切にする悟り系サラリーマン。有馬係長はなんであんなやつがいるのってくらい嫌なやつだよ!</p>	<p>☆☆☆</p>

008 由佳ちゃん

作品・作家名	感想
家族の標本 柳 美里 ☆☆☆	<p>週刊誌に連載されていたエッセイをまとめたもので、彼女の出逢ってきた人々の背景ともいえる家族をとりあげ、それを標本として見立てたもの、ノンフィクション。突然、父の異母兄妹と名乗る台湾女性が自宅を訪問してきて、不快感あらわだった父が、ことば少なげだが翌日祖父の墓へ案内する、という話、週末だけ訪ねてくる母親の恋人が重ねていた嘘がバレ、母親は家中に、そして恋人に灯油をあげせライターを手にするまでの惨事になりながらも、翌週何もなかったように母親を訪ねてきた恋人を、母親も何もなかったように受け入れ、そして深爪して切るところもない彼の爪を毎週ごとに母親が切ってあげている、という話など、言ってみれば、他人の(家族の)覗き見という感じなのですが個人というもの、そしてこうあるべきだという世間の(というより自分の)常識とどう折り合いをつけて生きていくのかを考えてしまいました。</p>
90くん 大槻ケンヂ ☆☆☆	<p>彼の書くものはエッセイにしても小説にしてもサクサク読めて、好きな作家の一人です。格闘技好きの私にとっては、彼の格闘技への敬意を表するツッコミがたまりませんし、超常現象に対する賛同でも批判でもない視点はどんな超能力者や科学者よりも説得力あります。これも連載されていたコラムを集めたもので90年代に起こった様々な事件や現象がオーツキの視点から書かれていてそのテーマはエボラ出血熱などの国際的社会問題から自身のAV出演話まで幅広く、巻末のスリーピングムービーと題した「90年代ともかく観ていて眠くて仕方なかった映画ベスト7」も笑えること必至。</p>
村上春樹 河合隼雄 に会いに行く 村上春樹 河合隼雄 ☆☆☆	<p>好きな2人の対談集。2人は村上さんが大作「ねじまき鳥クロニクル」(購入してもう随分と経っているのにまだ手を付けていない。気合いを入れて読まなきゃ行けない気がしてまだ1行も読んでない・・・)を執筆中に初対面されたそうです。この時、頭の中のムズムズがほぐれ、優しい感覚に包まれたようでそれ以来、相手の思考の自発的な動きを邪魔すまいという徹底した河合さんの姿勢に感心している様子が伝わってきます。「私は本当にいい加減です。何にもしとらんのです。クライアントが勝手に時分で良くなっていくんですよ」などとよくあちこちで書かれている河合さんですが、不思議な引力をもつ方。河合さん、一度お会いしたい！カウンセリング受けて！などと思ってしまう。この本の最初の部分に書かれているコミットメント(かかわり)とデタッチメント(かかわりのなさ)については深く考えさせられます。</p>
共生虫 村上 龍 ☆☆☆	<p>中学生から精神を病んでいた主人公ウエハラ(彼の作品はここんとこ名前がカタカナばかり・・・)は小学生の頃、祖父の入院していた病院で細長い虫のようなものを見ました。その虫は死際の老人の鼻から這い出してきた、ウエハラの眼から入り込んできて、それと同時にその時老人が息を引き取ったのでウエハラはその虫のようなものが人間と共生していてその虫が体内から出る時は死ぬ時だととらわれていきます。だんだんと精神を病み、ひきこもりを起こしながらもとあるニュースキャスターが病原大腸菌をとり上げるテレビ番組で「寄生虫にしる細菌にしるウィルスにしる、人類の知識が及びもつかないところで進化しているのです」とコメントして以来、このキャスターに興味を持ちます。彼女のホームページにアクセスし、このページの管理者インターバイオとメールでやり取りをしながら物語は進んでいくのですがやはり龍らしいお話でした。ヒュウガウィルスでウィルス学、免疫学をかなり勉強したとっていた作者ですが、この作品も彼らしくリアルタイムな背景で(ひきこもりや、ネット上でのかかわり合いなど)描かれていておもしろかったです。</p>

006 うさお

今期はこれ以外にも借りてきた本はあったんだけど、(奥さんが) タイトルを入力してくれていないので、そのまま図書館に返しちゃったのさ。今月も半分が出張でした。読む時間はたっぷりあったんだけど、それにしても暑いなあ。暑いとどうも本を読みたく無いなあ。という訳で今回は読んだ本、少ないよ。



記憶の中の殺人	内田康夫	以前借りて来た本だってことは知っているさ。もう一冊浅見光彦ものを借りてきてイージー・リーディングを楽しんだのさ。	いつもながらの内田節。 ☆☆☆
ジャッカー	黒岩研	和製ディーン・クーンツの誕生? って触れ込みですが、そうかな? 究極のバーチャルリアリティ・コースターに乗ると精神に乗り移りが生じて・・・連続殺人が・・・という面白そうだがそうでもないぞ。	新聞社に勤めているということですが、あまり文章は巧く無いです。 ☆☆
スピカ	高嶋哲夫	原発の乗っ取りもの。なかなか面白い。この人、元原子力研究所員。私と二つ違いだ、サントリーミステリー大賞受賞者。「イントルーダー」です? あれ、これって前回読めなかった本だよ。あはは・・・これこそコースタームービーのようだ。	☆☆☆☆☆
果つる底なき	池井戸潤	銀行の貸し付けマンが、倒産した小企業の原因を追求する。場所は渋谷。懐かしいなあ。第44回江戸川乱歩賞の新人さん。文章に気取りがあるのが、気になるが・・・	この人もと銀行マンです。多いなあ、この手の元何々って人。リストラかなあ ☆☆☆
バースデイ	鈴木光司	T Vでお馴染みのリング、ループの続編。だが、やけに叙情的な文章になっちゃった。	☆☆
クライシスF	井谷昌喜	第1回日本ミステリー文学大賞新人賞作品。遊軍の新聞記者が、不可解な事件の真相に「あくび」が起因していることを発見する。遺伝子組み替え食物がその引き金に・・・	如何だって言うんだろう? ☆
北の狩人	大沢在昌	北海道の警官が父を殺した犯人を追う。またぎの末裔。日本の古武道のような感性で技を使い、やくざを追い詰める。	☆☆
アキハバラ	今野 敏	電脳国際都市アキハバラに繰り広げられるスパイとやくざとマフィヤとおたくが繰り広げる笑える闘い。レトロと最先端が棲む東京九龍城。とにかく早い、凄く早いテンポで進む。	本当に今の秋葉原はこんな風です。 ☆☆☆☆

探偵ガリレオ	東野圭吾	大学の同期の物理学助教授と刑事とが解決する事件の数々。作者自身が工学部出身の所為か、結構嬉しそうに書いている。そんな莫迦なと思いつつもながらも納得、納得。	☆☆☆
ソリトンの悪魔	梅原克文	海底油田基地が正体不明の深海生物に襲われる。「アビス」そっくりのシミュレーションと「青の6号」「サブマリン707号」合体したような作品。最近流行のやけに戦闘メカに詳しい描写。	和製クーンツだって言うんですけど、まだまだかなあ。 ☆☆☆
薔薇船	小池真理子	怖いぞ。「とても怖い話」みたいに怖いぞ。小池さんは昔から怖いよね。特に古い家屋と俄の雷雨、薄暮れの中で見える居るはずのない女主人。う～ん、怖いぞ！！	☆☆☆☆
撃つ	鳴海章	この人がよく出た方の作品。戦闘メカが詳しい梅原とも被る作品。実を言うとこの作品も依然借りたことがあるぞ！	☆☆☆

これじゃあやっぱ短いよねっと言うことで、今回もお茶濁しを。あの有名な「マーフィーの法則」の話です。1949年アメリカ、カルフォルニア、エドワード空軍基地でのこと。

ここでジョン・ポール・スタッフ少佐がテスト飛行中、重力測定装置の異常が発生しました。原因は誰かの間違えたセッティングのせいでした。その時の優秀なエンジニアだったエドワード・アロイヤス・マーフィーJrは、その場の暗い雰囲気を持ち払うように「選択肢がいくつあっても、人は最悪な結果になる方法を選ぶ」という法則を打ち立てました。

アメリカン・ジョークですね！(-_-;)って、笑えねえなー。

その後、このマーフィーの法則は、「トイレに座った途端に電話が鳴る」、「たばこに火を付けた途端にバスが来る」、「車を洗うと雨が降る」、「傘を買うと雨がやむ」など数々の法則を産み出し、「宇宙の法則」として確立されたものでした。

さて、この法則の例をいくつかご紹介しましょう。

○コンピュータにおける「マーフィーの法則」

- ・99%のデータを打ち終えたとき、パソコンはハングするぞ。

注) ハング：引っ掛かる、宙ぶらりんになるの意

どのキーを押してもウンともスンとも言わず、勿論セーブも出来ない。(;-;)

「うちの旦那はハングしちゃって」という風に用いる。

補足：入力が終わりパソコンの電源を切ってから、セーブしていないことに気付くぞ。

- ・バックアップしようとしてフォーマットすると、それは元原稿のフロッピーだ。

注) バックアップ：おけつがピンと上がっているおねえさん。Tバックが似合うぞ。

注) フォーマット：新しい規則を与え、雁字搦めにすること。

使い方 「フォーマットしたろうか、吾れ！！パン買ってこいや！」

さて、優秀な技術屋さんほど、「後から考えればいい方法がいくつもあるのに、一番最悪な方法を最初に選ぶ」という法則が成り立つようです。

「トイレに座ってから、紙が無いのに気付き、ハンカチを使ったが後ろを向くと三個も置いてあった。」

「千円札でたばこを買いに行くと、つり銭が切れている機械に当たる確立が多い。」

「洗車後ワックスを掛けると必ず新たな傷が発見出来る」

「買った傘は電車の網棚が置き場所になる」

えっ、単に運が悪いただけだって！

・パソコンでエッチな絵を見ていると、普段は決してスクリーンを覗きに来ない上司が来る。

注)某課のK君は、最近パソコンを自宅に買いました。夜な夜なパソコン通信をして、エッチな絵を見ては楽しんでいました。そういう時に限って、心優しい母親が夜食を持って、廊下を渡って来る音が聞こえて来ます。(勿論会社の仕事をしているもんだと思っている、彼は親にパソコンの電源の入れ方を教えていない。彼の場合は上司ではなくて、母親がそれに当たる。)

WINDOWSの絵はそう簡単には切り替わらない(MACもそうだけどね!)。それまでの時間が異様に長く感じる。はらはらどきどきのスリリングな日々を過している。

マーフィの法則ではありませんが、「にぎりっぺ」の話を一つ。

昔の子供は遊びの種類がそんなに多くはありませんでした。特に子供達が大好きだったものに、「にぎりっぺ」があります。これは自分のお尻に手のひらを置き、思いっきりおならをします。

そしてすかさず疾走します。時々手のひらを鼻にかざしては匂いを嗅ぎます。少しでも残り香があれば、走り続ける事が出来ます。最長不到距離を稼いだ人間が、大将になれるのはいうまでもありません。



ある日の事、何時になく快調で、どこまで駆けても香りが残っています。100m、200m、500m駆けても残っています。不思議に思い、手のひらを開けると、そこには鵜の卵のようなものがありました。

では「マーフィの法則」、麻雀編です。

これほどマーフィの法則が当て填まるゲームを、私は知りません。麻雀をとおして、宇宙の真理の息吹に触れ、深淵を感じ、人生を理解したたつもりだったのですが、実生活ではほとんど役に立っていません。

- ・ドラを捨てると、続けてドラがくる。
- ・良いマチの当り牌は持ち持ちである。
- ・早いリーチほど追っかけリーチに当たる。
- ・苦勞して打ち廻した牌は、安全牌である。
- ・振り込む回数は、点棒の数に反比例する。すなわち、点棒が少ないと振り込む回数は増える。

ここで皆さんに、あまり知られていないルールをご紹介します。まあ、知っててもほとんど役に立たないけどね。

包牌。「ばおはい」と読みます。これは鳴いても役万が成立する手役の時、例えば大三元や大四喜、字一色、緑一色などのとき、故意に手役を完成させてはならないというルールです。させたものが責任払いをします。

例を大三元に採りましょう。ある面子が紅中、緑発をボンして大三元の役万が見えている時に、あなたが「勝負だっ!」とばかり白板を鳴かせて大三元を確定させたとしましょう。しかもこれを上らせちゃった場合、その面子がツモった時は鳴かせたあなたの一人払い、他の誰かが振り込んだ時は振った人とあなたの切半で支払います。

でっ、次は「ルソンの壺」です。



昔、大層吝嗇なおばあさんが住んでいました。村一番の分限者のくせに、今にも崩れそうな家に住んでいました。村山某さんの生家も十七万円で売りに出ていましたが、あのような家だったのでしょう。

そのくせおばあさんは、ものぐさ者で働くのが嫌いで、寝床の脇の床の間に一つの壺を置き、喉に絡んだ痰をこの中に吐き出しては溜めていました。それどころか、頭に湧いた虱も潰しては、この壺に入れていました。やがて、壺の

中身は醜酔して何とも言われぬ香りがするようになりました。

ある夜の事、一人の泥棒がおばあさんの噂を聞いて盗みに入りました。見事に何も無い家、しかし屋根の破れから射す月の光に浮かび上がったのは、件くだんの壺。

「おお、これこそはきっと、由緒のある壺に違いない、もしや、あのルソンの壺と呼ばれる名器ではないか。色、艶、光、錆の具合も、いい仕事してますねえ。」

手に取ってみると、いかにも趣が深い。振ってみると「ぼしゃり」と音がする。はて、これはなんだと覗きこむと、どろっとしたものが入って来る、目と鼻にツンと来る食欲をそそる香りもする。

「これは、もしや、あの噂に聞いた”このわた”という物ではなからうか。一流の料亭でしか出ないという……。」

絶句をしてしまいました。旨い!。あとは、夢中で壺に手を突っ込み、掬すくっては口に入れ舌鼓を打っては、「口福、口福、おっ、このつぶつぶは数の子か。」

ついにこの泥棒は、ルソンの壺だけを持って逃げ出しましたとさ。

でっ、お口直しに「桐一葉」を、

とある山道を歩いておられますと、尾籠びろうな話です申し訳ございませんが、催してまいりまして、大の方が。

山の中とて人家ひとつある訳ではなし、誰も見る人もいないし、ええっ、ままと、脇に逸れてしゃがみこみました。思いのほかたっぷり出たもので「ほっ」としましたが、ふと落とし紙を持っていない事に気がつきました。身に寸紙も持っていませんので、今度は違う意味で脂汗が湧いてきました。(マーフィの法則ですね!)

傍らを見ると、そこに青桐があり、大きな葉が付いています。これぞ、神の(紙の)の助けとばかり、その葉を一枚を千切り取り、拭きにかかりましたが、何分慌てているいるのと、勝手が違う事から

「ぴりっつ！」

葉が破れて左手の人差し指が、〇〇この中にズブッと入ってしまいました。

「わっ、きたねえ！」

〇〇この付いた左手をブルブルと振ると、そばの立ち木に思いっきり指をぶつけてしまいました。

「いててて・・・！」

思わず、痛む指を口に啞えて「痛い、痛い飛んでけ」と叫んでおりました。

(この逸話は、あまりにも有名。あの山松ゆうきちも「プロフェッショナル列伝」だったかに描いています。とにかくマニアックなテーマです。)

今回は綺麗な浪漫派のお話にする予定です。ではでは。

(えっ、次回もこんなものを載つけるのか？期待して待て！！)

003 あみちゃん

新恋愛講座	三島由紀夫	ああ、やっぱり割腹自殺するだけのことはあるよね。気迫がちがうよ。	☆☆☆
リヴィエラを撃て	高村薫	*元IRAテロリストの青年が東京で謎の死を遂げる。それが、すべての序曲だった。彼を突き動かし、東京まで導いた白髪の東洋人スパイ《リヴィエラ》とは何者なのか？空前のスケール、緻密な構成で国際諜報戦を活写した傑作*再読。前回5つ星を付けた。何度読んでも高村薫の筆力には唸られますねー。	☆☆☆☆
「そうだ、村上さんに聞いてみよう」と世間の人々が村上春樹にとりあえずぶっつける282の大疑問に果たして村上さんはちゃんと答えられるのか？	村上春樹	インターネットのHPでやっていた「質問コーナー」みたいなものの活字版。 たとえば。 Q 女の子であり続ける条件は？ A 静かに歩く。音を立てずに食事する。姿勢をよくする。大きな声で話をしない。新しい情報の受け売りをしない。装身具にあまりお金をかけない。下着だけはバーゲンで買わない。テレビを見すぎないで、そのかわり本を読むようにする。なるべく愚痴を言わない。丁寧に歯を磨く。ジャンクフードは食べない。 とかね。 ああ、わたしは既に女の子じゃなくなりかけているかもしれないです。みなさんはどうですか？	☆☆☆

東京 100 発ガール	小林聡美	「やっぱり猫が好き」の小林聡美のエッセイ。三谷幸喜の嫁だけあって、変わってる。	☆☆☆
雨天炎天 ～ギリシャ・トルコ辺境紀行	村上春樹	旅行記。ギリシャからトルコまでの旅。ギリシャ編はギリシャ正教の聖地で修道院を巡る旅。一日中歩きどおしで、食事は貧しくて…、でちょっと遠慮したいけど、トルコはおもしろそう。ちょっと現世離れしてるっていうか。や、ある意味すごく世俗的なんだろうけど。なんか興味ある。	☆☆☆
超芸術トマソン	赤瀬川原平	トマソンっていうのは・・・、「高所ドア」二階家の二階部分に空中浮遊みたくドアがある。もちろん、階段とかそのドアに辿りつくためのものはまったくなしで、ただドアだけが唐突に。 「純粹階段」普通、階段は昇った先にドアがある。純粹階段は昇っても降りてくるだけの階段。まれに昇った先に窓があったりもする。 不条理ギャグの世界。それをまた真面目に分析するからおもしろい。	☆☆
辺境・近境	村上春樹	旅行記。ノモンハン事件の戦場を訪ねる旅と讃岐うどんを食べ尽くす旅をおんなじスタンスで書きちゃうのがすごいよな。ほかに、メキシコ旅行、瀬戸内海のからす島で1泊2日の無人島体験、アメリカ大陸横断、震災後の故郷・神戸を歩く旅。	☆☆☆☆
辺境・近境～写真篇	村上春樹 村松映三	「辺境・近境」の旅に同行したカメラマンの撮った写真集。 冬に神戸に行ったとき、神戸高校の前を通った。建物がきれいだったので写真を撮った。 この本の神戸編をばらばら眺めてたら、春樹さんの母校の写真が載っていた。神戸高校だった。 もしかしたらあれは春樹さんの歩いた道だったかもしれないなあ。	☆☆☆

002 がみちゃん

「二夜の月」 千野隆司 ☆☆☆

どうして泥棒って、あと1回って思うのかしら。きっぱりやめちゃえば違う人生送れて幸せになれるのに。もどかしい。やっぱり正義は勝つからなのかしら。たくさん同じような話はあるのですが、この本を読んでいる頃十五夜くらいで、本当に月がきれいで思わず見とれた。

001 健ちゃん - 読書リスト初めての登場ですー

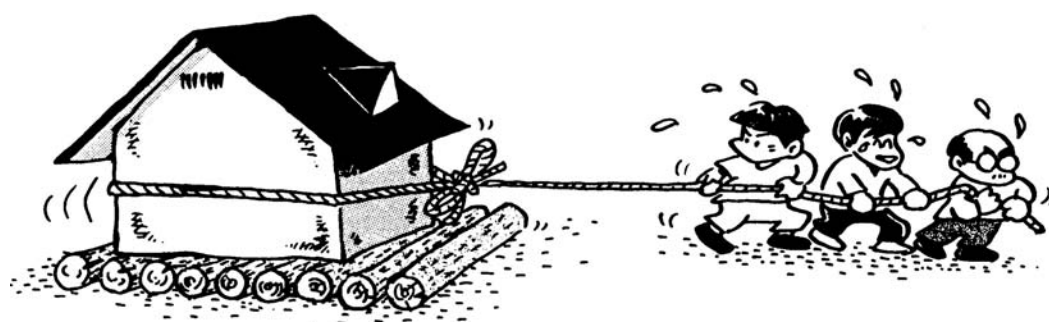
No.	作品名	出版社	著者	ひとくちコメント	評価
1	蒼い記憶	文藝春秋	高橋克彦	緋い記憶、前世の記憶につづく3冊目の短編集。表題作を含め全12作より成る。細部まで良く覚えているのに自分の記憶に矛盾を感じたりする経験は誰もが持っているもの。そんな不思議を題材にシリーズ化されたが今回は1作当たりの頁数も少なく恐怖度も薄れてきているのが残念。	☆☆
2	ぷろふいる傑作選	光文社文庫	山前讓選	大正末期から昭和初期の探偵小説の出版事情を紹介し、幻の探偵雑誌として注目の高い3誌の代表傑作を掲載。SFや幻想ものの大家も名を連ねているが全く知らない作家も多い。	☆☆
3	探偵趣味傑作選	光文社文庫	山前讓選	題材が古びているもののそれぞれ探偵小説への愛着、意気込みが伝わってくる作品が多い、自分が知らなかった作家では甲賀三郎なんか面白かった。	☆☆
4	シュピオ傑作選	光文社文庫	山前讓選	挿絵やタイトルも当時のものを使っていてこれがミステリーものに良く合っている。巻末には作者別掲載作品のリストがあって資料としても貴重。	☆☆
5	雨あがる		山本周五郎	映画化を記念して作品を収録した「おごそかな渇き」を新装発行したもの。	☆☆☆
6	〔図説〕三国志がよくわかる事典	知的いきかた文庫	守屋洋監修	三国志の文字を見るとつい手にとって少しでも知らないエピソードや、興味ある記事があると買ってしまふんだよなあ。	☆☆
7	黒い家	角川ホラー文庫	貴志祐介	ホラーものと思って読み始めたらサスペンスものだった。じわじわ迫ってくる悪意と狂気はサイコかつストーカー的。描写、展開のうまさで恐怖感を増幅させる。作品は保険金殺人を扱ったものだが、同様のことが現実にも平然の如く行われている(?)ことを考えるとこれも恐ろしい。映画の方は主人公を付狙う部分をダイジェストしている形で作品の恐怖感をうまく演出したとは思えず、脇を固める俳優が活かされていなかった。	☆☆☆☆
8	パチリの人	新潮社	伊藤礼	パチリは碁石を打った時の音、文壇の囲碁名人3連覇を果たしたこともある著者の最大の楽しみである囲碁に関するエッセイ集。碁を知らないひとでも雰囲気を楽しめると思う。知っている人には1つ1つのエピソード、体験談の心情、行動が自分のことのように共感出来て思わず笑ってしまう。	☆☆☆

9	季刊島田荘司 v o 1.1 創刊号	(株)原書 房	島田荘司	島田荘司の作品を読むのはこれが初めて、本の装丁と創刊の文字に惹かれて購入、この本は言ってみればさくらはもこの富士山のようなもの。著者の私的な写真、日記、関心事などについて書いている。この人カリフォルニア在住らしい。外国趣味で若干ナルシストの感じがした。さすがにこの内容で読者を惹きつけるのは無理とみて人気の御手洗シリーズ「山手の幽霊」を書き下ろして載せている。舞台が地元横浜であるだけに興味を持てたが謎解き重視で読ませる工夫が足りないように感じた。それとこの話の中の密室の設定は最初からあり得ないのがはっきりしてるだけにどうかと思った。	☆☆
10	ぼんくら	講談社	宮部みゆき	店子を襲った殺人事件をきっかけに店子が一人ずつ去ってゆく。そこに何らかの意思を感じた同心井筒平四郎が真相究明に挑む。ぼんくらというよりは優しさ・実直ゆえのものぐさと言える。謎はヒネリを加えてあるもののたいしたことは無い。しかし、これにからむ登場人物の生き様が生々しく、切々と描かれているのが良かった。特に、お徳、おくめの関係は涙を誘う。	☆☆☆☆
11	京伝怪異帖	中央公 論 新社	高橋克彦	弟子を斬って死刑になった平賀源内が実は生きていた。これをつきとめた若き山東京伝が源内と組んで5つの怪事件の謎を探る。怨霊、生霊の出現もあり、怪事件を創り出した者への配慮、生存を公にできない源内の立場を踏まえて真実をあばき、うまい決着方法を考え出すところが見もの。	☆☆☆
12	新・旭日の艦隊 15	C・ NOVELS	荒巻義雄	もうこのシリーズは惰性で読んでいる。紺碧の艦隊シリーズと合わせると60巻以上におよんでいる。基本的には第2次世界大戦をやり直し、日本主導の世界平和を築くためどうしたら良かったか作者の戦略を冒険活劇要素たっぷりにシミュレーションするというのが主旨だった。平和への道を模索する作品であったがなまじヒットしたため、戦争ものの艦隊シリーズが軒並み書かれるや著者が宗旨変えをし活劇部分を抑えたため、学問的になってわくわくする部分が無くなってきた。	☆☆

13	広目屋完四郎天狗殺し	集英社	高橋克彦	シリーズ第2集12話の連作。広目屋とは江戸の広告代理店。今回は情報屋、トップ屋の側面を見せ、広目屋藤岡屋に居候している香冶完四郎が幕末の京の情報屋を募りに相棒の魯文と京へ旅立つ。これに坂本竜馬と美貌で男まさりの蘭学医お香が加わり旅先で出くわす奇怪な事件を解決する。著者は江戸時代の実情に詳しく怪談、奇談は得意とするところなので事件の設定が面白く話しの持っていく方が巧み。	☆☆☆
14	あやし-怪-	角川書店	宮部みゆき	江戸版ミステリー・ゾーンと言ったところか。さほど恐怖感は無く、霊や物の怪が身近だった江戸時代を舞台に、9つの怪談を人情話風かつ不可思議な物語に仕上げている。	☆☆☆
15	黒澤明と「七人の侍」	朝日ソノラマ	都筑政明	映画作成ドキュメントとエピソードが豊富な資料と写真で語られる。自分も観る人も納得する作品を創ろうとする意気込みが伝わってくる。これだけ徹底的に作り上げたからこそ色あせることなくそのエッセンスが他の作品にもシチュエーションを変えて受け継がれていくのだろう。ファンなら必読の一冊。	☆☆☆☆
16	「坂の上の雲」をゆく 上巻	産経新聞社		坂の上の雲に因んだ名所、史跡、当時の様子等を写真と色紙調の挿絵で紹介。	☆☆
17	富士山3号	新潮社	さくらももこ	さくらももこの作品、身の回りの出来事、近況等、なんでもありの私的寄せ集め本。今回の特集は父親の「ヒロシ」。全国のヒロシの写真を募り、ヒロシ大賞まで設けている。ちなみに私の弟もヒロシです。	☆☆
18	映画の昭和雑貨店	小学館	川本三郎	昭和初期の映画の中の小道具、生活風景をキーワードに映画そのもの、あるいはその時代の世情を思い出深く語っている。この本は江戸東京博物館で「懐かしの昭和展」を開催していた場所で買ったもの。	☆☆☆
19	続・映画の昭和雑貨店	小学館	川本三郎	著者は自分より10歳年上のため扱っている映画が若干古すぎるくらいはあるものの写真に映る場面は懐かしい雰囲気が満載だった。	☆☆☆

20	四谷怪談	講談社 文庫	高橋克彦	鶴屋南北の四谷怪談を少年・少女文学全集用に書き改めたもの。怪談は子供の時から好きで四谷怪談も映画でずいぶん観た。だけど原作はこんなに登場人物が多かったとは思わなかった。映画の見せ場といえば提灯抜け、仏壇返し、壁抜け、戸板返しのシーンだが本のほうはこれだけでは終わらない。只、ラストで伊右衛門の魂が救われた形で死んでいくのには違和感が残った。	☆☆☆
21	萬			廃墟の魔力を特集として各地の廃墟を紹介。小特集に懐かしの喫茶店を掲載している。あみちゃん、かよこちゃんの影響で最近、廃墟が気になりだした。只、私の場合こういう廃墟的な風景は子供の頃の原体験として残っている部分もあり、たまたまいそのものの魅力もさることながら、懐かしさや時を止めてしまったものへの思いなどが複雑に交錯するのです。懐かしの喫茶店特集も同様に勤めはじめた頃、本を抱えて色々な喫茶店へ行っていたのを思い出しても懐かしく読みました。	☆☆☆☆
22	アラマタ珍奇館	集英社	荒俣宏	この人は本当に何でも集めているんだなあ。ここではからくりに関するものや存在しないなら作ってしまえの精神でつくられたと思われる珍奇なものまで集めてその蘊蓄を語っている	☆☆☆
23	名将秋山好古	光人社 NF文庫	生出寿	坂の上の雲を読んでもう少し詳しく知りたいと思って買ったがそれ以上のことはほとんど書かれていなかった。司馬遼太郎の取材の方が確かということか。この本自体はまずまずなのだが。	☆
24	鬼	ハルキ 文庫	高橋克彦	重苦しい雰囲気は良く出た作品だがやや肩透かしを食った気がしないでもない。5つの短編からなり、陰陽師と鬼の対決を予感させる書き出し、しかし鬼の実体は……	☆☆
25	「坂の上の雲」を ゆく 下巻	産経新聞社			☆☆
26	東京人 10月号	東京都歴史文化財団		特集はTokyoデザインガイドブック(街と建築)。小特集に「江戸東京古書散歩」を掲載していたので購入。書店とその店が扱っている本や資料をふんだんに使っているのが楽しい。	☆☆

27	東京人 9月号	東京都歴史文化財団	特集「同潤会アパートpart2」同潤会アパートとは関東大震災の復興計画として東京・横浜に建てられたアパート群のこと。建替えを余儀なくされている集合住宅の文化史的な役割・意義を検証すると共に当時の様子、滅び行く現在の様子を豊富な写真資料で紹介しているので興味深く読めた。	☆☆☆
28	IN☆POCKET 9月号	講談社	文庫版の大きさの文庫情報月刊誌。今まで小冊子だった（と思う）のが突然、文庫売り場に平積みで売られていたので買ったもの。文庫の発刊情報が目的なので200円と安価。「京極夏彦の紹介」を巻頭特集に紙数が少ないが25人程度の作家の作品を載せているのでお得。著名作家の書斎探訪シリーズもあり今回は有栖川有栖。	☆☆☆
29	東京人 5月号	東京都歴史文化財団	バックナンバーに「喫茶店の憩」という特集を見つけたのでかって喫茶店巡りをしていた時を思い出して取り寄せてもらった。作家の喫茶店体験や、在りし日の喫茶店から現在のカフェに至るまでの喫茶文化を紹介している。知っている店も結構でてくるので面白く読めた。	☆☆☆



エリザベス・キューブラー・ロス

精神科医。1926年、スイスのチューリッヒに生まれる。
チューリッヒ大学に学び、1957年学位を取得。その後、渡米してニューヨークのマンハッタン州立病院、コロンビア大学ピリングス病院で「死とその過程」に関するセミナーを始める。
1969年に「死ぬ瞬間」を出版して国際的に有名になる。
著作の中では自伝的色合いの強い「死ぬ瞬間と臨死体験」「人生は廻る輪のように」がとても感動的だ。

エリザベス・キューブラー・ロスは言う。誰の心の中にも、ヒットラーとマザーテレサの両方が存在すると。どちらか一方だけの方が、実は楽なのだけれど、どちらも本当、それが人間なのだ、と。

心理学者河合隼雄氏も

「大人になることは葛藤保持力を身につけることだ」、そんなふうに話していたと思う。悩んだり苦しんだりする、それは生きていくうえでは必要なことなのだと思えてくる。

著作
死ぬ瞬間
続・死ぬ瞬間
新・死ぬ瞬間
「死ぬ瞬間」と
臨死体験
エイズ死ぬ瞬間
死ぬ瞬間の
子供たち
人生は廻る輪
のように
ダギーへの手紙
生命ある限り
天使のお友達
死後の真実
生命尽くして

表紙は語る

DOKU-GAKU一周年。

本当にあっという間の一年だった！そんな感じです。特別企画もいろいろやったし、臨時増刊を出すこともできました。みんなの力が集まって一冊の本になる——こんなに楽しいことはありません。

10年先も20年先も、みんなで楽しくやっていたらいいな！
これからもよろしく！！

DOKU－GAKU掲示板

シドニーオリンピックも無事閉幕。
マラソン高橋尚子選手の笑顔。
あのポジティブな考え方に
楽しむことがどんなに大切か
再認識させられます。
私たちも気楽に楽しんでいきましょう！

では8月号感想です。

yukoさん♪

DG着きました。ありがとう。楽しく読ませていただきました。
省吾特集、こんな風に仕上がったんだって、うれしかった・・・
省吾に会いに行く前にうれしい力をもらいました。ほんとうにありがとうね。
由佳さんの「我が心のマリア」もちかちゃんの「家路」「ON THE ROAD」もあらためて、いいなあと感じたし、「家路」の中の、石のような孤独を道連れに・・・というフレーズがすごい！！と思った事思い出しました。

由佳ちゃん♪

DGありがとう！またもすんばらしい出来ですね。感激しています。
まだ数ページしか読んでないのですがすごいです！！

Y純子ちゃん♪

なんてきれいなのでしょう。あんなにワープロを使いこなして・・・
ただただ感心 うらやましい！
それに比べると私なんて、何にも出来ていないわ。お恥ずかしい
内容もすごい みんなよく読んでるね。
読んだのもあるけどほとんど知らないものばかり、
またまたお恥ずかしい
いったい私は、毎日何をしているのでしょうか。

さて健ちゃんからのメッセージです

みなさんへ♪

読書リスト掲載の本に興味を持たれた方は、いつでも貸し出しますので、ひと声掛けて下さいね。

あみちゃんへ♪

「横浜徘徊」堀内ぶりる、雑誌「東京人」喫茶店の憩い特集を手に入れ、今書店に「大阪人」頼んであります。古い街、古いお店、僕も好きなのでこれからも情報交換などお願いします。もちろん本は貸しますよ！

風の噂によると

健ちゃんの毎月の本代は5～6万だそうなの。

なんともうらやましい……

ではでは企画ちかちゃんより新企画のお知らせです。

ゲストの綾美ちゃんより、全員で同じ本を読んだでの評価(vol. 2の「白夜行」総力特集)が面白いとの意見をいただき、DGはさっそく行動を起こします。ただ、本よりビデオのほうが合わせやすいということで、次回から「みんなで同じ映画を観よう！(仮題)」というコーナーを新設することにしました。会員は勿論、ゲストの参加もお待ちします！

次回のテーマは「ジャンヌ・ダルク」です。もうすでに観てしまった人も、何か観たいなあと思っている人も「ジャンヌ・ダルク」を観てご意見ください。

楽しそうな新企画！

いろんな意見の飛び交う場になるといいね。感想待ってます！

さて相談役うさおからお知らせです。

DGをインターネットのHPで立ち上げようとただ今準備中です。

いろんな人たちに手軽に見てもらえ、会員さんたちも利用してくれるといいなと思ってます。HP立ち上げの第一目的は、会員の皆さんが各々自分でいつでもDGを取り出せるように、という事ですが、如何なものでしょうか？

<http://homepage2.nifty.com/i-masuda/> PDFファイルは重いので、少し時間がかかるとは思いますが我慢してね。創刊号とPDFファイルは出来ています。のぞいてみてください。

ではちかちゃん、y u k oさんの初対面報告です。

ちかちゃんより〜ご報告

残暑の厳しい9月9日、銀座のホテルでy u k oさんと初めて逢っちゃいました！
半年間のメールのやりとりでy u k oさんのイメージがすでに出来ていて、すれ違っても判ると豪語していた私なのに、なんと同じホテルのロビーにいなながらもお互い判らなかったのです。

一緒に行ったがみちゃんが、なんの目印もなく待ち合わせたことにあきれていました。

あとから思えば、y u k oさんは比較的イメージどおりの人だったのだけれど、騒ぎながらホテルに入っていった私たちに目もくれなかったということは、私たちのイメージがy u k oさんの持っていたものとはかなり違っていたということなんだ、と気がつきました。(確かにy u k oさんたら170cmの私を見て、もっと大きいと思ってたと、とんでもないこと言ってたなあ・・・) でも、一度でも逢うとメールを書きながら本物のy u k oさんの顔が浮かぶので、余計に親しみが増したように思います。ね、y u k oさん！ 今度は私たちが広島へ行きますね！

あみちゃんよりyukoさんへ♪

おみやげありがとうございます！省吾さんのライブはどうでしたか？

今月には新しいアルバムが出るようですね。たのしみですね。

さて今月号は

yukoさんのショートストーリー

ちかちゃんのシナリオモドキ、うさおのエッセイ、健ちゃんの読書リスト初登場、と
読み応え充分だったのではないのでしょうか？

プロの作家でいらっしゃる千野隆司さんのDG登場は、
私たちにとって、とっとうれしい、感動的な出来事でした！

さて来月号DGはどんなふうになっていくのでしょうか？

ではまた次号で！

2000年10月20日発行

発行人 読書を楽しむ会

印刷・製本 M's factory

次号予告

DOKU-GAKU年末特大号

12月下旬発行予定

投稿締め切り 11/30

特別企画テーマは

『21世紀に残したい作品』です。

共に今までの人生を歩いてきた、
これから一緒に歩いて行こうと思っている、
そんな作品たちを是非紹介してください。

投稿待ってます！！

「みんなで同じ映画を観よう！」(仮題)

お題は『ジャンヌ・ダルク』です。

よろしく！！

2年目に突入だ！

DOKU-GAKU年末特大号もよろしく！！